

1 主題

主体的に学ぶ東桜っ子の育成

—「だからこうしたい！」と目的意識をもって自己選択する児童を目指して—

2 研究のねらい

本校は、一昨年度より、「主体的に学ぶ東桜っ子の育成」をテーマにして、学習の中でP D C A サイクルを児童が回すことができるようになるための授業研究に取り組んできた。

1年目は、算数科の学習を中心に、「前時の振り返りを生かし、児童自らが行う本時の課題設定」と「授業終末の振り返り活動の充実」を追究してきた。2年目は、主要教科の学習を中心に、「自己選択をする場面の設定」と「授業終末の振り返り活動の充実」を追究してきた。2年間の研究を通して、学習課題に対してどのように学習を進めていくとよいのかを自分で考えたり、本時にできた、分かったことを具体的に振り返ったりすることができるようになった。一方で、次時の学習目標が「早く取り組む。」「丁寧に取り組む。」など漠然としたものであったり、予定していた時間内に学習課題をやり遂げられなかったりといった姿が見られた。これは、学習の最終目標やそれを踏まえた現在の自分の到達点がどこなのかを意識するといった学習の自己調整がうまくできなかつたためだと考える。

そこで本年度は、「目的意識をもって自己選択することができる工夫」を意識して授業研究を行っていく。これは、「ナゴヤ学びのコンパス」や富士中ブロックの「つながるプロジェクト」で重視されている学びの姿「自分に合ったペースや方法を自己選択・自己決定する場面」において、学習の最終目標を踏まえて判断した現在の自分の到達点を把握し、それを基に学習方法や内容を自己選択・自己決定していくことである。また、2年間行ってきた「振り返り活動の充実」を継続して行う。そうすることで、授業の終末で自分の到達度を把握し、それを基に次時以降の学習を考えるとといった自分の学習の自己調整を行うことができると考える。以上のことにより、粘り強く学習に取り組んだり、自らの学習を調整しようとしたりして、主体的に学ぶことができる東桜っ子を育成したい。

3 研究の内容

(1) 実践を進めるにあたっての教師の姿勢

研究の基盤となる「学習のP D C A サイクル」を通して、児童の主体的に取り組む態度を育て、考える楽しさ、分かる喜びを感じさせたいと考える。

- P D C A サイクルを意識した授業改善
 - ・ 「児童が課題を設定する場面（P）」（主に導入場面）では、児童自らがこれまでの学習を振り返り、何を課題として取り組んでいくのかを考えるための支援を行うことで、目的意識をもって自己選択・自己決定し、学習に取り組むことができるようにする。
 - ・ 「自ら学習の進め方を試行錯誤する場面（D）」（主に「展開場面」）では、児童自らが自己選択・自己決定したことを基に学習を進められるように支援を行うことで、自分に合ったペースや方法で学ぶことができるようにする。
 - ・ 「児童が自らの学習状況を把握する場面（C、A）」（主に「授業終末の振り返り活動」）では、児童に学習の過程を振り返らせ、内面の変化を表出させることで、学習の最終目標を踏まえた現在の自分の到達点がどこなのかを把握できるようにする。
- ※ 振り返り活動は、自分の学習の成果や課題をすぐに見返すことができる形になるように、学年で相談する。（数時間分もしくは単元を通して1枚で完結する形のもので、実践教科は学年内で同一形式とする。いつでもすぐに見返せるものが望ましい。）

<主体的に学ぶ東桜っ子を育成していくための手だて>

- ・ 目的意識をもって自己選択することができる工夫
- ・ 次時につながる振り返り活動の工夫

(2) 具体的な実践の進め方

ア 1学級1授業実践を公開

○ 位置付け

- ・ 主体的に学ぶ児童の育成を目指して、1学級1授業実践の公開を行う。
- ・ 単発の学習ではなく、単元構想を練った学習の1授業を公開する。
(公開する授業は、単元のどの場面でもよい。)
- ・ 年度初めに学年で相談して教科を決めて実践を進めることで、検証ができるようにする。(教科担任制の学年は、両学級で実践が行えるため、2教科で行う形でもよい。)また、専科指導教員は担当教科で実践を行う。

○ 実践期間

- ・ 学年で前期(5～9月中旬)と後期(10月～1月末)に分かれて実践を行う。

○ 授業実践の流れ

① 実践日時を決める。(3週間前を目途に)

- ・ 部会メンバー及び校長先生の予定を確認し、全員が参加できる日程で候補日を3日程度決め、推進委員長に相談する。
- ・ 推進委員長と教務主任で日程を確認し、日時を決定し、実践者に伝える。



② 事前検討会を行う。

- ・ 部会で指導案(略案形式)検討を行う。(指導案は前日までに配布)
※ 指導案の書き方は、後日提案する。
- ・ あらかじめ、検討の観点を授業者が提示して、30分を目安に会を行う。



③ 事前授業を行う。

- ・ 同学年の他学級で、努力点の指導案を使った授業を行い、手立ての有効性や授業の流れについて検討を行い、指導案を修正して完成させる。
- ・ 事前授業は、学年を中心に行う。
(手立ての場面のみでの参観や担任が指導案の内容で授業を行う形でもよい。)



④ 実践前日までに指導案と資料を印刷し、机上に配布する。



⑤ 授業実践を行う。

- ・ 授業実践者の部会は必ず観察する。
- ・ 学年で写真撮影を行う。(※記録してほしい場면을事前に伝えておくとよい。)



⑥ 事後検討会を行う。

- ・ 原則、授業実践を行った日の午後に、30分を目安に会を行う。
- ・ 手立てを中心に、検討の観点を絞って行い、成果と課題が明確になるようにする。



⑦ 実践報告書を作成する。

- ・ 実践後1週間を目途に作成し、推進委員長に決裁用紙を付けて提出する。
(決裁：学年→部会の推進委員→推進委員長→校務→教務→教頭→校長)
- ・ 作成方法は後日提案する。
- ・ 実践報告書を基に、保護者へのメール配信の資料を作成してメール配信をする。

イ 全体授業

- 1学期に、全校で1人代表者が行う。
- 授業づくり
 - ・ 授業者の所属する部会を中心に行う。(推進委員長・推進委員も参加する)
 - ・ 事前検討会後に、同学年の他学級で、努力点の指導案を使った授業を行い、手立ての有効性や授業の流れについて検討を行い、指導案を修正して完成させる。
- 事前・事後検討会
 - ・ 事前は、指導案を基に、検討の観点を授業者が示し、全体で検討を行う。
 - ・ 事後は、検討観点を絞り、児童の変容を基に、手立ての有効性の検証を全体で行う。

ウ 保護者への周知

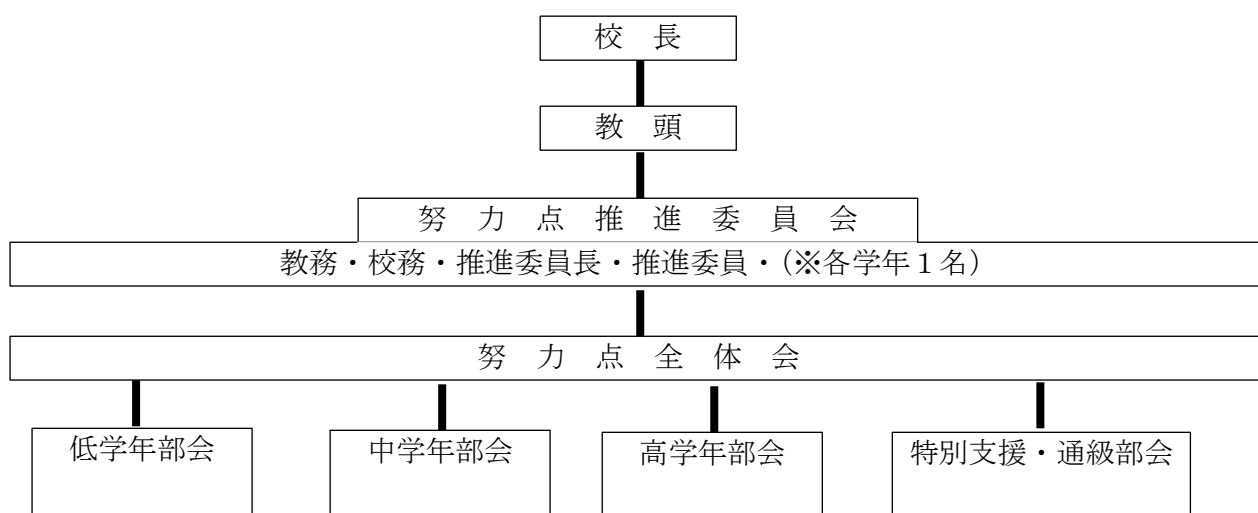
- ・ 実践報告書を基に、資料を作成し、メール配信によって周知する。また、3学期の学級懇談会において、資料を配布して実践報告を行う。
- ・ 努力点に関する授業を12月の土曜授業参観(学校開放日)に行う。

エ 研究収録

- ・ 指導案、実践報告書、各学年のまとめを印刷し、冊子にする。
- ・ 各学年のまとめの形式については、3学期に提案する。作成後は、決裁を回す。
(決裁：学年→部会の推進委員→推進委員長→校務→教務→教頭→校長)
- ・ 推進委員で協力して作成する。

4 推進組織

(1) 努力点推進委員会



- ・ 教務主任・校務主任・推進委員長・推進委員を運営推進メンバーとし、研究主題・推進計画・運営方針の立案、決定を行う。
- ・ 必要に応じて、運営推進メンバーと各学年1名で組織する推進委員会で協議する。

(2) 部会

- ・ 推進委員を中心に、実践時期の計画を立てる。
- ・ 実践の事前・事後検討会を行う。
- ・ 特別支援・通級部会には、特別支援学級担任、通級指導担任と推進委員が所属する。主に、特別支援学級の努力点実践について検討する。
- ・ 特別支援学級担任と通級指導担任は、担任している児童の交流学級または通級指導を受けている児童の学級の努力点検討・参観に参加する。
- ・ 0学年の教員は、子どもの実態を把握した上で、6月頃までを目途に所属部会を決める。

(3) 全体会

- ・ 全体での意思統一を図ったり、努力点研究のまとめを行ったりする。
- ・ 代表授業の事前・事後検討会を行う。

5 年間計画

令和6年度 学校努力点年間スケジュール		
会の名称と日にち		内容
4月2日(火)	・努力点推進委員会	・今年度の研究テーマについて
4月11日(木)	・努力点全体会	・今年度の研究テーマについて
4月15日(月)	・努力点部会協議	・部会ごとに計画立案、手だての検討
6月13日(木)	・代表授業事前検討会	・代表授業の検討
6月20日(木)	・代表授業・代表授業事後検討会	・授業参観 ・事後検討
9月25日(火)までに前期分の実践報告書を提出		
10月3日(木)	・努力点全体会	・中間報告会(前期実践の報告)
12月7日(土)	・土曜授業参観・学校開放日	・努力点授業の保護者への公開
2月12日(水)までに後期分の実践報告書を提出		
2月27日(木)	・努力点全体会	・最終報告会(後期実践の報告)
3月3日(月)までに各学年のまとめを提出		
3月14日(金)までに研究収録完成		
3月21日(金)	・努力点推進委員会	・来年度に向けて